

当音楽電子事業協会の副会長をつとめられ、電子楽器及びMIDIの発展に多大なる貢献をされました、株式会社コルグ 代表取締役会長 加藤 孟 氏が去る2011年3月15日にご逝去されました。故人のご功績を偲び、2003年MIDI規格誕生20周年を記念してAMEINEWSに寄稿いただいた文章を掲載させていただきますとともに、心より哀悼の意を表します。

## MIDI 夢想

●加藤 孟 社団法人音楽電子事業協会 副会長  
 株式会社コルグ 代表取締役会長



新しい技術の登場やその応用は、予想よりはるかに早いと感じることもあり、逆に遅々として進まないと思うこともあります。

通信衛星が飛び交うようになったのはいつ頃だったのでしょうか。そのころ知り合いのミュージシャンや出入り業者とよくたわいもない雑談をしたものです。

『2、30年後には、音楽の世界も通信衛星を利用するのが当たり前になりますね。そうすれば東京＝

ニューヨーク＝ロンドンと離れた場所においても気軽にジャムセッションができるようになり、ミュージシャンの仕事も音楽の楽しみかたも変わるでしょうね』

『でも地表から静止衛星まで最短距離でも3万6000キロメートルもあり、電波もかなり遅れるから、セッションできるだろうか』

『確かに時間の遅れを取り戻す方法はタイムマシンでも作らない限り出来そうにないですね。でもその頃には、逆に時間の遅れを積極的に利用した音楽が盛んになっているかも知れませんよ』・・・

その後MIDIが生まれ、電子楽器間あるいは電子楽器とコンピュータとの接続も容易になり、音楽の通信環境は格段と身近になりました。

家庭ではブロードバンドによるインターネット接続も珍しいこと

ではなくなりました。それとは知らぬうちに、誰かの創ったMIDIデータをパソコン内部の電子楽器の演奏で聴いている日常でもあります。

そして通信衛星は衝突の危険性があるほどのラッシュ状態になり、多くのミュージシャンはコンピュータを自在に操り、映像を含めてジャムセッションを実現するための材料はほぼ出揃った感があります。

技術環境は予想より早く到来したようです。

しかしあの時夢想したジャムセッションは未だ聴くことが出来ません。あれから新しいジャンルの音楽が次々と生まれ、私の好きな音楽ジャンルのCDは店の片隅に追いやられてしまいました。

技術は使われてこそ価値があるものです。いつの時代も使い方を

考えるのは人間であり、技術そのものは決して答を出してくれないという事でしょうか。

世界中のロックスターの手形が集まっているGuitar Centerにある『Rock Walk』には、2003年、「コルグ」の加藤孟会長が殿堂入りしている。

